

新 除 草 剤

ない。

グラモキソン パラコート液剤

I C I 社
日本農薬株式会社
武田薬品工業株式会社

性状・作用特性：本剤の主成分は、1・1'-ジメチル-4・4'-ビピリジリウム・ジクロリド24%の液剤である。

殺草特性は、強力な接触作用をもつ除草剤である。すなわち、茎葉に附着した薬液は、短時間に体内に浸透し、枯草作用をあらわす。そして、光・葉緑素・酸素の要因がそろった場合に極めて高い殺草力をあらわす。その症状は、散布後1～2日目から雑草の葉先が黄化し始め、4～5日で枯死する。

選択殺草性はなく、イネ科・広葉雑草いずれにも強力に作用する。

残効性は、土壤中に入るとただちにイオン交換によって吸着不活性化されるので極めて短い。また、土壤中の移動性もない。したがって本剤は、発芽して生育している雑草に対して効力がある雑草処理剤である。

毒性については、マウス経口毒性LD50が195mg/kgと劇物相当の毒性をもっているもので、PCP同様皮膚付着や経口吸入をさけるよう注意する。魚毒性は、小さいようである。

使用方法：乾田直播水稻に使用する。散布時期は、播種前1週間前～前日に雑草処理をする。10アール当り本剤200～300ccを50～150ℓの水にうすめ、非イオンの展着剤を加

えて、加圧噴霧機で、雑草の茎葉が充分ぬれるよう散布する。

使用上の注意としては、雑草体が乾いている時に散布する。なお散布液が付近の作物の茎葉にかからないよう注意する。

本剤は、このほか、水稻刈取後のマツバイ防除、麦類の播種前処理、果樹園用下草除草、ソ菜類畦間処理、牧野草地、桑園対象としても適用される。

シメトリン粒剤2.5

ガイギー社
日本化薬株式会社

性状・作用特性：本剤の主成分は、2-メチルチオール-4・6-ビス-エチルアミノ-S-トリアジンで、剤型は2.5%粒剤である。

本剤の作用特性は、他のトリアジン系除草剤（シマジン・プロメトリン等）と同様、吸収移行型除草剤で、光合成の阻害によって雑草を枯死、または発芽を抑制する。雑草種類に対する選択性は余りなく、イネ科及び非イネ科雑草すべてに大～極大の効力がある。また雑草の葉令からみた処理適期幅はタイヌビエの発芽時～1葉期に極めて高いが、3葉期以降では、やや小さくなる。

適用雑草は、一年生雑草のイネ科・広葉および、多年生雑草のマツバイに対してもかなりの効果があり、ヒルムシロに対してはプロメトリン同様卓効を示す。その他ウキクサ・藻類にも高い効果を示す。

土壤中の残効期間は長い。また温度による効

新 除 草 剤

果の変動はプロメトリンと異なり、小さいという特徴がある。

水稻に対する薬害については、発芽時～3葉期では極めて安全で、またヒエとイネとの間の選択殺草性があるので、移植前の土壌混層処理でも殆んど薬害がなく安全性が高い。

魚毒性はコイで48時間TLMが26 ppmと小さく、マウスのLD₅₀が535 mg/kg、ラッテには750 mg/kgと安全である。

使用方法：移植後5～10日に10アール当たり3～4 kgを均一に散布する。

適用土壌は、極端な漏水田を除く洪積火山灰土及び沖積の砂壤土～埴土である。また、若苗、軟弱苗使用の水田においては、深水状態(5 cm以上)での使用は避ける。一方散布後3日間位は落水はしない。

本剤はこの他移植前施用、移植後15日程度の施用、ヒルムシロ防除剤などとしても有望とされている。

K-86粒剤

呉羽化学工業株式会社

性状・作用特性：パーロックD(暖地用)とパーロックK(寒地用)の2種類がある。その成分はパーロックDがペンタクロロフェノールナトリウム(PCP)17%と、2-メチル-4-クロロフェノキシエタノール(MCPE)0.8%の混合剤で、パーロックKがPCP20%・MCPE0.6%の混合剤で、いずれも粒剤である。

両剤はPCPの欠点であるマツバイに対する

殺草力を高めるために、ホルモン型のMCPEを加えたもので、接触的作用と移行的作用をもつ除草剤である。

土壌中の移動性はPCPよりやや大きい、比較的小さい方である。効力の持続性は、PCPより長い。

雑草種類に対する選択殺草性は、イネ科のヒエ・広葉のコナギなど1年生雑草に効力が大きいほか、多年生雑草のマツバイにも有効である。

水稻に対する薬害発現作用は、土壌中の移動性のやや大きいMCPEが入っているため、株の開張や初期生育を抑制することがあるが、後に回復し、収量にまで影響することは殆んどない。

使用方法：(イ)パーロックDは暖地の普通栽培を対象とし、移植後4～7日及び中耕後土壌処理用として使用し、(ロ)パーロックKは寒地の普通栽培の中耕後土壌処理用として使用する。散布量は、両薬剤とも10アール当たり製品3 kgを均一に散布する。

土壌中の移動性がややあるので、漏水の少ない埴土～埴土の水田で、日減水深2 cm以下のところで使用し、その他では薬害の発生のおそれがあるので使用しない。通常PAMの適用地帯が安全である。その他はPAMに準じる。